

# みゆきの里通信

2015 autumn / Vol.29

## 今後の行事予定 event schedule



11月27日  
ボランティア交流会

昨年の交流会の様子

## 担当医表 charge medicine table

		月	火	水	木	金	土
第1 診察室	午前		江頭			江頭	
	午後				江頭		
第2 診察室	午前	津出	吉田	金場	師岡	吉田	担当医
	午後	師岡	本田	高野	高野	津出	
第3 診察室	午前	馬場	馬場	馬場	馬場	馬場	
	午後			和田山			
鍼灸 治療室	午前	長尾			長尾		
	午後		長尾		長尾		
歯科 1	午前	田川	田川	田川	田川	田川	田川
	午後	田川	田川	田川	田川	田川	

- 統合医療センターについては御幸病院総合受付でお尋ねください
- 王研究員の漢方相談…毎週水曜日の午前・午後 毎週木曜日の午後(15:45～)

長尾名誉院長 外科(鍼灸漢方)・健康相談を担当します。

馬場総院長  
吉田院長  
津出診療部長  
川野リハビリテーション部長  
本田消化器・内科医長 内科を中心として、種々の診療を担当します。  
高野内科医長  
金場リハビリテーション医長  
師岡循環器・内科医長

磯貝緩和ケア診療部長 緩和ケア病棟を担当します。  
緒方緩和ケア診療部・内科医長

江頭医師 呼吸器・アレルギー疾患・心療内科を担当します。

和田山医師 整形外科を担当します。

田川歯科医師 歯科を担当します。予約が必要です。

- 緩和ケア入院相談 月～土 8:30～17:30(随時)  
相談窓口：地域医療連携センター

## ニュース news

### みゆきの里在宅総合支援センター 南区江越に開設

平成27年11月1日に、「みゆきの里在宅総合支援センター」が南区江越に開設されます。これまでみゆきの里の在宅系事業所は、里内の各施設に併設される形で点にしていたのですが、この度これらの事業所を一か所に集約することとなりました。現在、御幸病院をはじめとするみゆきの里の各施設は、訪問看護・訪問介護などの在宅サービスに力を入れています。関係する事業所が同じ場所に集まることで、情報共有や連携の強化、サービスの向上が期待されます。

在宅総合支援センターへ移転する、みゆきの里の各事業所は以下の通りです。

- 御幸病院ケアプランセンター Tel:096-284-1924
- 訪問看護ステーションみゆきの里 Tel:096-284-1921
- 御幸病院訪問介護事業所 Tel:096-284-1050
- 居宅介護支援事業所みゆきの里 Tel:096-284-1957
- みゆき園訪問介護事業所 Tel:096-284-1995

みゆきの里在宅総合支援センター  
熊本市南区江越2丁目7-1



特集

## 安心して入院・退院 できる環境づくりを

～地域医療連携センターの新たな役割～



みゆきの里  
人が人をおもう。  
人が人をつつむ。

～医療の輪で、健康と命の尊厳を支えます～ 医療法人博光会 御幸病院



- 【診療科目】 内科・消化器内科・循環器内科・呼吸器内科・漢方内科  
リハビリテーション科・心療内科・アレルギー疾患内科  
小児科・歯科・麻酔科(ペインクリニック) [医師：岡崎止雄]
- 【診療受付時間】 平日 午前8時30分～午後5時  
土曜 午前8時30分～午後12時 ※但し急患は何時でも受け付けます。
- 【施設概要】 ●緩和ケア病棟：20床  
●一般病棟 30床 (うち地域包括ケア病床 14床)  
●回復期リハビリテーション病棟：60床  
●地域包括ケア病棟：25床  
●医療療養型病棟：51床  
●併設：訪問看護ステーション「みゆきの里」御幸病院訪問介護事業所

詳しくはホームページをご覧ください <http://www.miyukinosato.or.jp/>

発行/医療法人博光会 御幸病院 〒861-4172 熊本市南区御幸苗田6-7-40 OTEL:096-378-1166 OFAX:096-378-1762 メールアドレス info@miyukinosato.or.jp



みゆきの里 会長  
医療法人博光会 理事長  
**富島 三貴**

みゆきの里通信第29号をお届けします。今回は御幸病院  
地域医療連携センターのご紹介です。

熊本市は全国的に見ても、医療機関による連携が非常に  
進んでいる地域です。超急性期・急性期の病院に入院され  
た患者様は、疾患に応じて適した病院へと紹介され、そこで  
治療の継続と退院後の生活の為の準備を行い、ご自宅や  
施設へ帰られた後は、地域のクリニックや在宅サービスのフォ  
ローを受けられます。治療とケアの各段階において、それぞ  
れの医療機関や事業所が密に連絡を取り、スムーズに在宅復  
帰を促す取り組みが進められています。

また、地域のクリニックをかかりつけにされている患者様が、  
急な病状の変化を起こされた場合、病床数に限りがあるク  
リニックでは、入院に対応できない場合もございます。そういった

際に、急変された患者様を受け入れ、病状の安定とともにご自宅へ、かかりつけのクリニックへと  
お返しする、バックベッドとしての機能も、地域の病院には求められています。

御幸病院におきましても、平成16年の回復期リハビリテーション病棟開設や、平成25年の  
地域包括ケア病棟の開設に伴って、病病連携や病診連携に取り組んでおります。患者様お  
一人お一人に応じた、シームレスな連携を実現するために、平成26年に地域医療連携セン  
ターを設置いたしました。

これまでの地域医療連携センターは、主に前方支援として他の医療機関からのご紹介を  
扱っておりましたが、平成27年4月に継続療養支援室・相談室と統合し、入院中や退院後の  
フォローといった後方支援も担当することになりました。新しくなった御幸病院地域医療連携セ  
ンターの取り組みをご覧ください。

人が人をおもう。人が人をつつむ。



**特集**

## 安心して入院・退院 できる環境づくりを

～地域医療連携センターの新たな役割～

- P1 会長挨拶
- P2 特集
- P5 みゆきのひとヒト
- P6 みゆきの広場
- P7 今後の行事予定／担当医表／ニュース

# 安心して入院・退院 できる環境づくりを

## ～地域医療連携センターの新たな役割～

昨年11月、組織改変を行い新たに生まれ変わった「地域医療連携センター」。  
入院前から退院後まで一貫して支援を行い、より良い在宅復帰を支える同センターでは、  
どのような取り組みが行われているのでしょうか。

### 地域との連携を強化し 変化に対応できる組織に

一昨年の発足以来、主に前方支援(入  
院時のサポート)を通じて、急性期や高度  
急性期病院からの受け入れに力を注い  
できた「地域医療連携センター」。これま  
で患者様の入院中や退院後のフォローに  
関しては「継続療養支援室・相談室」とい

う部門が担ってきたのですが、昨年11月  
に統合。前方・後方支援を一貫して行うセ  
クションに生まれ変わりました。現在は  
「御幸病院」の総院長でもある馬場憲一  
郎医師を筆頭に、副センター長、4名の  
ソーシャルワーカー、3名の看護師が力  
を合わせて運営にあたっています。セン  
ター長を務める馬場総院長は「組織の変  
革を行った背景には、国の施策が大きく  
関わっています。従来は病院完結型、み

ゆきの里完結型であった医療の流れが、  
地域完結型へと変化しているのです」と  
話します。

平成26年に成立した「医療介護総合  
確保推進法」によって、医療と介護をめ  
ぐる現状はダイナミックな変化を遂げつ  
つあります。なかでも来る2025年を10  
年後に控え、都道府県単位で病床機能の  
確保を目指す「地域医療構想」は、私た  
ちの生活にも大きな影響を



## 第27回 みゆきの里夏祭り

8月6日(木)、第27回目のみゆきの里夏祭りが開催さ  
れました。毎年恒例のこの催しですが、今年も地元や周辺地  
域の皆様を中心に、2,000人以上の方々にご来場いただく大  
盛況となりました。

当日の舞台では、笛田神社による巫女舞や和太鼓、園児の  
皆さんによる「よさこいソーラン節」など、地域の方々が様々  
な演目を披露して下さいました。トリには、ひまわり在宅クリ  
ニックの後藤院長が所属されるアカペラグループ「ANALO

GS」に、見事な歌声を披露していただきました。

また、こちらも恒例の、みゆきの里職員の手による夜店も  
大賑わい。特に、リハビリテーション部職員による射的やカラー  
ボールすくい、開場直後からお子さんたちが一斉に詰めか  
け、大変な賑わいでした。

そして最後は、お楽しみ抽選会。富島会長が当選番号の書  
かれたくじを引く度に、メインステージ前に集まったご来場者  
の皆さんから大きな歓声が沸いていました。



話し手:地域医療連携センター



地域医療連携センター長  
御幸病院総院長  
馬場憲一郎



地域医療連携センター長  
御幸病院事務長  
村上信幸



地域医療連携センター  
副看護部長  
福原千秋



地域医療連携センター主任  
ソーシャルワーカー  
谷口保代



地域医療連携センター  
看護師  
山下雄三



地域医療連携センター  
看護師  
上野久美子



地域医療連携センター  
ソーシャルワーカー  
児嶋洋子



地域医療連携センター  
ソーシャルワーカー  
萩本真由美



地域医療連携センター  
ソーシャルワーカー  
堤信泰



及ぼすことが予想されています。「2025年には、いわゆる「団塊の世代」が75歳以上になり、後期高齢者の数が激増することが予想されます。それゆえ、在宅医療の重要性が高まっているのです」と馬場医師。従来は、里内の介護老人保健施設や特別養護老人ホームといった施設と連携し、退院後のサポートまで円滑に行ってきた当院ですが、今後は在宅復帰を第一目標として、高齢者支援センター「ささえりあ」や訪問診療を行うクリニックなど、里外の施設との連携も強化していく必要があるといいます。「これまでも、「高齢者支援センター」を中心として地域との連携も図ってきましたが、今後はより大きな流れの中で役割を果たしていかなければなりません。普段、在宅で過ごされている方が入院を必要とされた際、また介護者であるご家族が急用の際に利用できるバックベッドとしても機能しなければ、里外との情報共有はこれからの課題ですね」。

**キーワードはやはり  
“多職種協働”  
ソーシャルワーカーの活躍**

「医療と介護の一体化が推進され、多職種のスタッフによる協働は今や必須となりました」と話すのは、副看護部長の福原さん。当院において“多職種協働”は数年前から繰り返し登場してきたキーワードですが…? 「かなり早い段階から取り組んでいた仕組みではありますが、やはり昭和の年代に比べると、力の入り方が違います(笑)」と振り返ります。馬場医師も「私が医者になったばかりの頃は“はい良くなりました、退院していいですよ”これでお仕舞い。もちろん、水面下では看護師のサポートなどもあったと思いますが、基本的に多職種による後方支援など存在しませんでした。今では、ソーシャルワーカーやセラピスト、看護師がチームとして退院後の暮らし方まで気を配り、安心して家に帰

れるような仕組みを作っています」と力強く頷きます。また、ソーシャルワーカーの児嶋さんによると、入院前の事前訪問も大切な仕事なのだとか。「急性期の病院に足を運び、担当のドクターや看護師、患者様ご本人からも情報収集を行います。患者様にとっても、見知った顔がいれば、転院時のストレスも軽減できるのではないのでしょうか。私は地域包括ケア病棟のソーシャルワーカーですので、60日間という短い入院期間の中でスピーディーな対応を求められることが多いですね」と児嶋さん。介護保険を取得されていない患者様には、取得のお手伝いをすることも多いそうです「介護保険は医療サービスを受ける際、必要になる制度です。“いざ、リハビリ”という段階になってから取得をしても間に合いませんので、早めの情報収集や遠方のご家族へのアプローチなどを行うようにしています」。

回復期リハビリテーション病棟の専従

ソーシャルワーカー萩本さんは「病棟が異なれば、少しずつ担う役割も変わります。回復期の病棟に入院されている患者様は在宅復帰を前提としてリハビリを始められますので、それに合わせて試験外泊や退院前訪問を行い、入院から退院までシームレスに対応できるように心がけています」と話します。組織が変わり、病棟専従のソーシャルワーカーになったことで、状況判断がしやすく、患者様との距離も近くなったと感じているそうです。「まだ完全には実行できていませんが、今後は退院後の調査も充実させ、フィードバックに力を入れたいと思っています」。

**さらなる変化に対応する  
ために現代を生きる  
全員に必要な意識改革**

「最近では患者様のみならず、ご家族の支援も多くなってきました」と同じくソーシャルワーカーの堤さん。「身寄りのない方や、成年後見人がついておられる方も多くなり、家族背景が複雑化していること



を実感しますね」と話します。判断能力のない方で家族の関わりがない、またはない方について、家庭裁判所によって弁護士や司法書士、社会福祉士など専門知識を持つ人物が任命され、患者様の代理として契約を行う後見人。そういった患者様が入院された際には、後見人も密に連絡を取り合い退院までの支援を行う必要があるそう。今後、ますますの増加が予想されるシステムでもあります。

「熊本県の高齢者は、2040年に向かって年々増加していきます。その中で、医療

機関にできることは何か、自問しながらやっていかなければならないでしょうね」と馬場医師。「ひたすらに“在宅へ”と掲げても、受け止める環境がなければ在宅復帰は不可能。そういう状況について、都道府県単位で考え始めたばかりというのが現状です。今、医療や介護が大きな変換点を迎えているということは、医療者だけではなく患者様やご家族の皆様にも知っていただく必要がありますし、一人ひとりが覚悟を持って超高齢化社会に向かっていかなければならないと思います」。





みゆきの **ひと** **ヒト** **人**

御幸病院看護部長

# 石原 知代

Tomoyo Ishihara

## ケアをする私たちの “心”や“手”のぬくもりが 何より重要と考えます

熊本県和水町出身の58歳。一昨年まで京都第二赤十字病院で看護副部長として勤務していましたが、いずれは熊本に帰りたいという思いから昨年退職。帰熊後は御幸病院に入職し、1年間看護師長として勤務しました。そして2年目を迎えた今春、御幸病院の看護部長に抜擢されました。

昨年は久々の看護師長業務がとても楽しかったと語る石原看護部長。「日赤ではずっと管理をしていたので、やはり現場はいいなあとしみじみ思いながら1年間を過ごしました。このまま現場で…という気持ちもありましたが、思いがけず『看護部長に』とのお話をいただき、それもまた私に与えられた役割であると考えてお引き受けさせていただきました」。

日赤は急性期病院で、1分1秒を争う命の現場に携わってきた石原看護部長にとって、御幸病院はかなり新鮮に映ったといいます。「多くの関連施設があり、地域との一体化と連携が充実していますね。“保健・医療・福祉の総合力を発揮して健康生活のベストパートナーを目指す”というみゆきの里の理念が実現していると感じました。京都時代は、そういう環境にいなかったこともあり、考えてもいませんでした。富島前会長が30年以上も前に先見の目を持

ち、この構想を考え、作り上げて来られたと思うと鳥肌が立つ思いがしました」。

また大変感激したのが、みゆきの里から眺める夕日の美しさだったそう。「オリエンテーションで『うちは夕日がとてもきれいですよ』と言われ、え？夕日？と思いましたが、本当にここから見る夕日の美しさには驚きました。濃く大きな卵の黄身の色で、こんなの見たことない。この夕日を見る度に心が癒され、救われる思いがします。特に秋がきれいなんですよ」。

今後は、看護部の組織体制をさらに整え、看護の質を向上させることに尽力したいという石原看護部長。「高齢者の方々の場合、積極的な治療を望まれない場合もあります。当院は高度急性期ではありませんが、質の高い看護は不可欠です。知識・技術が大切なのはもちろんですが、ケアをする私たちの“心”や“手”のぬくもりが何より重要と考えます。その質上げをやっていきたいと思っています。」

大事にしているのは「人」。好きな言葉は『信頼』。京都時代から寺社仏閣や美術館でポーズとするのが趣味で、陶器を眺めるのも好きなのだそう。「以前は陶芸に通って自作していましたので、もう少し落ち着いたらまた始めたいですね」とにっこり。

## 「健康くまもと医福食農の協議会」第2回総会開催

平成27年6月に設立されました、「健康くまもと医福食農の協議会」第2回総会が、9月16日（水）に開催されました。この協議会は、農林水産省が推進する「医福食農連携バリューチェーン構築支援事業」に対して、みゆきの里が応募したものです。

総会では第1回同様、県内外の有識者・生産者・事業者・自治体の担当者等、計33名にご参加いただきました。第1回総会開催後から現在までの、協議会の活動内容が報告された後、御幸病院の江頭医師より、この協議会の基本的な考え方についての説明が行われました。

第1回同様、議事後は新たに考案された健康メニューの試食と評価です。レシピを考案した栄養士やシェフが説明をする中、参加されたメンバーの皆さんは真剣なまなざしで吟味・採点を行っておられました。

協議会中、活動報告に対するメンバーの方々のご意見・ご感想や、健康メニュー試食後のコメント等は、どれも非常に勉強になるお話ばかりで、大変有意義な総会となりました。

健康くまもと医福食農の協議会は、今後も毎月レシピの開発を行いながら、来年3月までに活動成果をまとめたレシピ集を作成・発行する予定です。



## 水前寺菜の 香味散らし寿司

<材 料>  
4人前 (1人前 319kcal)

- 米…………… 2合
- 寿司酢…………… 20~30cc
- 水前寺菜…………… 1/2束
- 卵…………… 1個
- 新しょうが…………… 1かけ
- オクラ…………… 2~3本
- 出し汁、薄口醤油…………… 適量

作り方>>

- 1 水前寺菜は葉をつみ、30秒~1分ほど塩ゆでする。半分は細かく切り、寿司酢につけておく。(赤い色がでる) 残り半分は出し汁、薄口醤油につけてお浸しに。
- 2 米はといて、炊飯器の寿司の線まで水を入れて炊く。
- 3 卵は錦糸卵にしておく。
- 4 新しょうがは千切りにし、水にさらしておく。
- 5 オクラは茹でて小口切りにし、出し汁、薄口醤油などにつけておく。
- 6 米が炊き上がったら、赤い色が出た寿司酢と水前寺菜を混ぜる。
- 7 器に盛り、錦糸卵、新しょうが、水前寺菜のお浸し、オクラを上飾る。



水前寺菜は2時間以上前に寿司酢につけておくと、赤い色がよくでます。トッピングは季節のものなら何でもOKです。夏は真夏や大葉などもよく合います。

## みゆきのの広場

### ワンポイント

#### 水前寺菜

葉の紫色はポリフェノールの一種、アントシアニン。これには強い抗酸化作用があり、ムチンと共に血糖値を抑える効果があるとされています。その他、γ-アミノ酪酸(GABA)やβカロテンを豊富に含み、血圧上昇抑制や活性酸素を抑えて生活習慣病から守ります。